

第1学年3組 音楽科学習指導案

指導者 荒岡 真衣

1 日 時 令和4年6月10日(金) 13:10~14:00

2 題材名 創作

3 学習空間 音楽室

4 題材について

(1) 創作は、リズム創作、旋律創作、構成創作などの活動により、生徒同士が音によるコミュニケーションを取りながら、作曲家の仕事を追体験することを通して、旋律やリズムの働きを理解することができる。わずかな工夫が音楽を変化させるといった体験は、その他の分野である歌唱、器楽、鑑賞でも生かされ、これ以降で出合う音楽に対し、どう聴くか、どう演奏するか、どう評価するかといった音楽との関わりを深めることのできる、価値のある題材であると考えられる。

本題材では、言葉のアクセントやリズムと旋律の動きに焦点を当て、自然な旋律の流れのイメージをもち、旋律創作へと発展させる。お互いに聴き合うことでヒントを得て、より「こどもの歌」のイメージに合うよう工夫し、変化を楽しみながらこどもにとってより歌いやすい旋律にしていくことをめざしたい。そして、作曲家の苦労や工夫に気づかせ、いろいろな楽曲を作る側の視点で見ることの価値を自分なりに考える題材としたい。

(2) 本学級の生徒は、男子18名、女子17名、計35名学級である。「自分にも曲をつくることができると思うか」という問いに対し、「できる」と答えた生徒は12名(34%)であり、理由として「音符を組み合わせるだけで簡単にできるから。」といったものが挙げられた。「できない」と答えた生徒は23名(66%)であり、「思いつかない。」「難しそう。」などの理由であった。以上より、生徒は創作の経験が少なく、自分で曲をつくることは難しいことだと感じている。

(3) 本題材を指導する(個の「ものがたり」を深める)にあたって、次の点に留意したい。

- ・ 創作する上で工夫した点を、音楽の諸要素のことばを用いて伝えることができるようにするため、自分の作品を吟味する時間を確実にもつ。
- ・ 演奏できたかを重視するのではなく、作品が課題や条件に沿ったものか、表現したいイメージや工夫点などの記述を大事にする。
- ・ 五線を使わず、図と言葉で作品を記録することで、読譜や記譜が得意ではない生徒も意欲的に取り組めるしかけとする。
- ・ グループ活動の際に、実際に作った旋律を歌ってみる場を設定することで、創作する中で生まれた作曲の意図をはっきりもち、考えに変容が起きたり考えを深めたりできるようにする。

5 本単元の目標

(1) 本題材の「ものがたりの授業」構想図

『ものがたりの授業』

★授業者のねがい（何のために、この題材で学ぶのか）

楽曲の旋律やリズムには意味があることに気付かせ、今後新たな楽曲に出合った際、より幅広く受け入れ、より深く曲のよさを味わおうとする意識をもたせたい。

●題材（ 創作 ）に対する「ものがたり」の変容

（学習前）

自由に作ることが楽しい。短いフレーズなら簡単なリズムの組み合わせですぐに創作できる。

探究的な学び

他者と語り合う

（学習後）

全ての音に意味があるように感じ、音楽は奥深い。曲には作曲家のさまざまな意図がこめられている。これから演奏したり聴いたりして気になった曲は、ことばとのかかわりがどのようなになっているのかにも注目していきたい。

≪(授業者が考えた)単元学習後の「振り返り」例≫ *「自己に引きつけた語り」部分



学習前、私は創作について自由で楽しいものであると考えていた。確かに、簡単で短いリズムを組み合わせただけでも、作曲はできる。しかし、誰のための歌なのか、どんな内容を伝える歌なのかを考え、より相手に伝わる作品に工夫しようとするほど、音やリズムの選び方は無数にあることが分かった。そして、友達と試行錯誤する中で、「この旋律なら腑に落ちる。」と感じる旋律やリズムにめぐり合ったとき、音楽を創る本当の楽しさを感じることができたように思う。

私にとってこの学習は、これまで何気なく耳にしてきた曲や、授業で学んだ曲への意識を変えてくれるものだった。なぜならば、これまで歌詞と旋律との関わりを意識して聴いたり歌ったりしたことはあまりなかったからだ。いろいろな楽曲を、作る側の視点で見ると、一曲の作品を作るということはとても難しい。たった16文字の歌詞を考えるのでさえ、とても時間がかかった。しかし、音やリズムの組み合わせは限りなく、限られた条件の中でそれらを組み合わせる創作は、とても奥深く面白さを感じられるものである。これから、好きだと思える曲ができた際、自分はその音楽のどのような特徴に惹かれるか、作曲した人が伝えたい想いは何かを考えながら、より一層味わいたい。

(2) 本題材で育成する資質・能力

<p>知識 技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音のつながり方の特徴と、反復、変化、対照などの構成上の特徴を理解している。 ・創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律と言葉の抑揚との関係、構成上の特徴がもたらす効果について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ○課題や条件の中で要素の働かせ方を試行錯誤し、4分の4拍子、8小節の曲を創作することができる。
<p>思考力 判断力 表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律、リズム、構成を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律、リズム、構成を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、思いや意図をもって旋律をつくることができる。
<p>学びに向かう力 人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の高低を生かした旋律づくりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○創作活動の学習の中で意欲的に旋律づくりにかかわり、他者の作品に触れて学ぶことを通して音やリズムの選択、組み合わせによる効果について理解を深め、自分の思いや意図を伝えることができる。

(3) 題材構成 (全7時間)

時間	学習課題 (中心の問い) と◆学習内容	生徒の思考・反応・振り返り
<p>1</p> 	<p><u>(学習課題) リズムに適する「ことば」をあてはめると?</u> ◆基本のリズムに日常的に使われていることばをあてはめる。</p> <p>これから示す2拍のリズムにあてはまる言葉を考えてみましょう。</p>	<p>生徒の思考・反応・振り返り</p> <p>四分音符2つだと「ターター」だから、「チーター」や「コーヒー」などがあてはまるのか。</p> <p>もっと長いことばや文章だと、どんなリズムになるのだろう。</p>
<p>2 3</p> 	<p><u>(学習課題) 短い詩に3音をあてはめると?</u> ◆まとまりのある16拍の詩を考え、ことばに適したリズムを考える。 ◆ことばの高低に合わせて抑揚を線で表し、3音をあてはめる。</p> <p>ことばには、リズムだけでなく、抑揚がついていますね。それを、3つの音にあてはめてみましょう。</p>	<p>言葉の抑揚がどのようになっているか、考えるのは難しいな…</p> <p>実際に声に出してみると、分かってきたぞ。</p>

4

(学習課題) こどものためにつくられた歌の特徴は何か？

◆「春が来た」「おうま」の楽譜と音源から、歌詞やリズムの反復・変化、音の跳躍、平易なことばがもたらす効果について考える。



こどもにとって歌しやすい旋律にするために、どのような工夫があると思いますか？

こどものためにつくられた歌にはどんな特徴があるのだろう。



同じことばを繰り返したり、ことばが違って同じリズムを繰り返したりすると歌いやすいのではないかな。



5

(学習課題) 一部形式でこどものための歌にするには？

◆まとまりのある8小節の詩をつくり、リズムと抑揚を考える。

◆自然な旋律の流れを意識し、音の高さを考える。



前回までに学習したことを活用しながら、8小節の歌をつくりましょう。

ことばの抑揚にそって音の高さを考えてみたけど、なんだか歌いにくそうだな…



ことばにリズムをあてはめただけでは、まとまりのある曲にならないな…



6

(本時)

(学習課題) こどもにとってより歌いやすくするには？

◆ことばの抑揚と旋律の動きが整合しているかグループで確かめる。

◆歌いにくいと感じる部分についてよりよく工夫する方法を検討する。



前回つくった歌を、こどもにとってより歌いやすくなるように工夫していきましょう。

あまり音が跳躍しない方がこどもにとっては歌いやすいかな…



ことばをたくさん使いすぎず、できるだけ音の動きもリズムもシンプルにすると、こどもにとって歌いやすい歌になる。



7

◆単元を振り返る。

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ ことばの抑揚と旋律の動きを関わらせて音楽をつくることに関心をもち、創意工夫して音楽をつくることができる。
- ・ 旋律の動きや構成上の特徴を知覚し、音楽で表したいイメージと関わらせながらどのような音楽に仕上げるかについて思いや意図をもつことができる。

(2) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり・★しかけ
1 こどもにとって歌いやすい歌の条件を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単に歌える。 ・ 覚えやすい。 	○ グループごとに配布した話し合いの視点をもとに、こどもにとって歌いやすい歌にするための条件を共有させる。
学習課題：こどもにとってより歌いやすい歌にするには？		
2 2つの作品を見て、こどもにとって歌いやすいところ、歌いにくいところについての意見を出し合う。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉とリズムが繰り返されているところが、覚えやすくてよい。 ・ 音が上がったり下がったりしすぎて歌いにくい。 	○ なぜ歌いやすいのか、なぜ歌いにくいのか、問い返しをし、どのような工夫を加えるとこどもにとってより歌いやすい歌にできるか考えさせる。
3 グループごとに、こどもにとってより歌いやすい歌にするための意見を出し合う。(三～四人組)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急に音の高さが変わるところが歌いにくい。 ・ この言葉を使うとリズムが細かくなって歌いにくい。どうすれば歌いやすくなるだろう。 ・ 前半と後半のリズムが同じで歌いやすい。 	○ グループで出た意見を、自分の楽譜に書き込んでおくよう指示する。 ★ ことばの抑揚と旋律の動きだけにとらわれないよう、曲全体に目をむけさせる。
<p>T :では、考えを。どうですか?はい、S1さん、どうぞ。</p> <p>S1 :私は、Aさんの旋律がうまくいっていると思います。なぜなら、イントネーションと旋律の動きがそわっているからです。</p> <p>T :なるほど。S3さんはS1さんの考えについて、どう思いますか?</p> <p>S3 :S1さんの「旋律の動きをことばに合わせている」という点には納得しました。</p> <p>T :「旋律の動きをことばに合わせて」作曲する効果についてはどうですか?</p> <p>S1 :イントネーションと旋律の動きが合っていた方が自然な感じがします。</p> <p>S3 :日本語は同じ音のことばがいくつもあるので、イントネーションは大事だと思います。</p> <p>T :今のS1さんとS3さんの話について、S2さん、どうですか?</p> <p>S2 :私は、Bさんの旋律がよく工夫されていると思います。なぜなら、小さいこどもが歌うことを考え、簡単なことばを同じリズムでくり返し使っているからです。</p> <p>T :S1さん、「くり返し」についてはどうですか?</p> <p>S1 :くり返しを使うのはいいと思います。Bさんの「〇〇〇」の部分は、イントネーションと旋律が合っていないけれど、ことばのくり返しによって歌いやすさは感じられると思いました。</p> <p>S3 :さらに、ことばはくり返しているけれど、音の高さはだんだん高くなっていくので、曲が盛り上がり、まとまりのある作品になると思います。</p> <p>S2 :たしかに、全てのことばを旋律と合わせなくても、音の選び方はもっと自由でいいのかもしれないです。</p> <p>S1 :歌いやすさを優先して音のつながり方を緩やかにするパターンもあれば、明るく元気な雰囲気を出すために、音の高さに差をつけたり休符やタッカのリズムを取り入れたりする方法も?</p> <p style="text-align: right;"><新たな気づき></p>		
4 学びを振り返る。		・ 前回で完成していたと思っていたけれど、よりよくできる工夫がたくさん見つかった。

7 見取り

- 旋律の動きや構成上の特徴を知覚し、音楽で表したいイメージと関わらせながらどのような音楽に仕上げるかについて思いや意図をもつことができているか。
- 本時や単元後の振り返りにおいて、創作に対する「ものがたり」の変容から、「自己に引きつけた語り」が生まれているか。